

Chairman's Correspondence

ゆとり？遊び？惻隱の情？

教育委員としてシンガポールを視察した時のことです。

歴史の若いシンガポールは資源のない国で、ほぼ淡路島の大きさのところに約 600 万人が住んでいます(永住者はおよそ 400 万人で他は外国人労働者)。

農業も漁業もわずかで、主なる産業は商業、バイオメディカル、金融、流通、通信などですから、日本以上に唯一の資源は「人」という国で、「教育こそが命」の国はあります。

それゆえでしょうか？小学校を訪ねたらほとんどの子が眼鏡をかけているので驚きました。子どもたちは早期に(5 年生ぐらい？)適性で大学進学組(優秀ならどんどん欧米の大学にも無料で留学させる！)と実学組(ホテル、放送、観光、事務などのマネージャー養成。)に分けられ国民一人当たりの GDP ははるかに日本を超える富裕国です。



地下鉄やシアター、美術館、博物館も整備され、雰囲気はアジアの英国です。町並みは公園



のように綺麗で(Garden City と言っています)、暑さを防ぐために街路樹が整備されており、学校のキャンパスも日陰が多く、風が通るように設計され、冷房を使わないところも快適でした。「タバコ」は禁止。そもそも店で売っていない！「チューインガム」も見かけませんでした。「ごみ」を路上に捨てたら逮捕されるという話でした。国民は適性で効率的に仕事をして、豊かで美しく、生産性の高い社会を築いていく。アジアの経済発展のモデルのような所でした。

大いに学ぶことが多かったのですが、あくまで個人の感想として、社会に「車のハンドルでよく言う遊び？」「あいまいさ？」「ゆとり？」が少ないように感じました。社会が白黒はっきりつけて、すべてが直接的で徹底している感じです。日本でいう「まあまあ適当に折り合いをつけて」というような文化は無いのです(アジアの英国ですから？)。

とかく甘えがちな日本と異なり基本的に望ましいのですが、そればかりでは窮屈！

最近は日本人の間でも「惻隱の情(これは武士道から？)」とか独特の感性が理解できない人も増えているように思います。そんな得にもならない感情はすたれてしまうのでしょうか…？私は、多分そうはならないように思います。

現地の大学に行ったときに教授に聞いたのですが、お金にならないような基礎研究をあまりやらないので、それゆえノーベル賞受賞者がなかなか出ない？成人になって進路変更は難しい社会？とのお話でした。また、私が直接お邪魔して感じたのですが特別支援などの教育が脆弱なところもありました。

若いということはガンガン前に向かうことができて、素晴らしいことですが、成熟した社会、歴史や文化の多様さと重みはこれから創っていくことでしょう。

Chairman's Correspondence

平等教育の結果

一昔前、平等教育が行き過ぎて小学校の運動会で足の速い子は後ろからスタート、遅い子は前からスタートし最後に手を繋いでゴールする徒競走という教育が行なわれたことがありました。

今までは嘘でしょう？都市伝説では？という疑問がありました、少し前「東洋経済・学力の経済学特集」に記事がありました。



大阪大学大竹文雄教授によると、この反競争的教育は、中部地方、関西、九州に多かったということです。

子ども時代にこういう教育を受けた子どもは大人になってグループで協力することを好み、人に頼みごとを聞いてもらってあまりお返しをしない。逆に他人にいやなことをされたら仕返しをするという「倍返し」のような傾向が強かったというのです。

競争を否定する教育を受けることによってかえって他人のことを考えない気質が身についたとしたら、その子が社会で受け入れられなくなってしまうことになります。

「適度な競い合い、競争」は、人間として大事なものを育ててくれるのかも知れません。それは時に「刺激」であり、「モチベーション」であり、「がんばる心」や「負けた者への心情の理解(惻隱の情?)」などでしょうか？



もし、競争なく平等に学校生活を終えても、その子が大きくなって放り出される実社会は猛烈な競争社会であり、時に不条理なものです。人はそれに耐えて乗り越えていかねばなりません。

今大切なことを学んでいるのです。

